

# 令和3年度 須賀川市立西袋中学校の教育



《学校経営の理念》  
 ◎地域の核となる学校として、活気と品格ある学校を創造する。  
 ◎生徒一人一人が持つ能力や可能性を引き出し、生徒の夢の実現に向けた教育活動を実践する。

《めざす学校像》  
 ○ 生徒が安心して楽しく学べる学校  
 ○ 生徒一人一人が夢や希望をもち、その実現を目指し意欲的に活動する学校  
 ○ 「勤労・勤勉」「自主・自律」の校風を基盤とし、誠実に活動する学校  
 ○ 保護者や地域と連携し、信頼される学校

## 教育目標

《基本目標》  
 豊かな心をもち、実践力のあるたくましい生徒  
 《具体目標》  
 ○ 明朗な生徒  
 ○ ねばり強い生徒  
 ○ 深く考える生徒

《県中教育事務所学校教育指導の重点》  
 ～「夢」や「希望」を実現する学校教育～  
 ① まなび：「確かな学力」の向上  
 (授業づくり、継続的な検証改善サイクルの確立、学びの基盤づくり)  
 ② きずな：「豊かな心」の育成 (道徳教育の充実・教育相談体制の整備)  
 ③ そだち：「健やかな体」の育成 (体力の向上に関する取組の充実、食育・健康教育の推進)  
 ④ ともに：「地域で共に学び、共に生きる特別支援教育」の充実 (小中学校における特別支援教育の充実)  
 《須賀川市学校教育の重点》  
 ～子どもの自尊意識を高め、個性や生き抜く力を育む学校教育の推進～  
 ① 確かな学力の育成  
 ○ 目指す学力の明確化と授業改善 ○ 学びの基盤づくり  
 ② 豊かな心の育成  
 ○ 道徳教育の充実 ○ 組織的・体系的な生徒指導  
 ③ 健やかな体の育成  
 ○ 体力・運動能力向上策の推進  
 ○ 健康教育と安全教育の充実

《学校経営の方針》  
 ①校長のリーダーシップのもと、クリエイティブかつ実践力を伴う教職員集団を育成する。【学校運営組織の整備】  
 ②「地域の核となる学校」として信頼される学校を目指す。【学校・家庭・地域との連携・情報発信】  
 ③生徒一人一人の学びを保障する。【授業の質の向上】  
 ④安全・安心を基盤とした教育活動を展開し、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策に万全を期す。【安全・安心な学校づくり】  
 ⑤教職員の個性や資質・能力を的確に把握し、その職能を開発し十分発揮できるよう支援する。【教職員の不祥事防止】  
 ⑥次世代を担う教職員を同僚性を活かし育成する。【次世代を担う教員の育成】  
 ⑦生徒、保護者、地域の信頼に支えられた持続可能な学校づくりを目指す。【教員の働き方改革】

本年度の重点  
 【目指す生徒像】

《重点目標》  
 生きる力を身に付けた生徒

○ 明朗な生徒  
 ○健康で安全な生活習慣を身に付け、進んで体力の向上・健康の保持増進に努める。(心身の健康)  
 ○他者との望ましい関わり方を考え、積極的に行動する。(自他の尊重)

○ ねばり強い生徒  
 ○自分の立場や役割を自覚し、責任ある行動ができる。(役割と責任)  
 ○目標を持ち、その実現に向けて継続的に努力する。(理想の実現)

○ 深く考える生徒  
 ○望ましい学習態度や学習習慣を身に付け、学力の向上に努める。(学力向上)  
 ○自ら問題をとらえ、正しい判断に基づいて解決することができる。(問題解決能力)

① 健康で安全な生活を送ろうとする意識の高揚  
 ○組織的な健康相談、教育相談を実施する。  
 ○交通事故絶無のための指導を徹底する。  
 ② 体づくり、体力づくりの推進  
 ○保健体育の授業や部活動、学校行事の関連を図った運営により効果を高める。  
 ○体力テストの結果をもとに、小学校と連携を図りながら体力の向上を図る。  
 ○健康な心身を培うために、家庭における望ましい食生活の実践について連携を図る。  
 ③ 一人一人を認め合う学年・学級集団の育成  
 ○学級における人間関係づくりを意識した学級経営を実践する。  
 ○個を生かす場面を意図的に設定し、自己存在感や満足感を味わうことができるように努める。

① 道徳教育の充実  
 ○心に響く道徳教育を展開するため、特に道徳の授業の充実を図り、豊かな人間性の育成に努める。  
 ○教科の指導内容や学校行事との関連を図るとともに、地域の特色を生かした体験活動等を通して道徳性を養う。  
 ② 学級活動の充実  
 ○リーダーの育成や一人一人の役割・責任を明確にした係活動等を運営する。  
 ○学習や諸活動において、お互いを高め合う学級集団づくりに努める。  
 ③ 豊かな体験活動の拡充  
 ○キャリア教育の充実を図り、職業体験などの活動を実施する。  
 ○保護者や地域との連携を図ったボランティア活動を推進する。

① 「わかる・できる授業」の実践  
 ○1時間ごとのめあてを明示し、まとめの時間を確保する。  
 ○各教科で表現力育成を目指した授業を実践し「読む・聞く・話す・書く」等の言語活動を意図的に位置づける。  
 ○協同的な学び(主体的・対話的な授業)を展開する。  
 ○読書活動を推進し、読み取る力を育成する。  
 ② 家庭学習のあり方の改善と習慣化  
 ○家庭学習スタンダードにより自己マネジメント力を向上させる。  
 ○保護者との連携により、家庭学習の時間を確保させる。  
 ○自主学習の効果的な取り組み方を指導する。  
 ③ 校内研修の活性化  
 ○日頃から互見授業を行い、授業の考え方、工夫を共有する。  
 ○一人1研究授業を行い、事前と事後の協議により指導力の向上に努める。  
 ○小学校との連携を強化し、9年間を見通した教育活動を展開する。(中学校体験ウィークの実施)

○不登校傾向生徒への支援(不登校0を目指す)  
 ○日常生活アンケートによる生徒の実態把握と教育相談(チャンス相談)の実施 ○自分手帳の活用  
 ○日常的な交通指導の実施(交通事故0)  
 ○安全で衛生的な給食、食事のマナー等の指導  
 ○部活動への積極的参加(部活動指導員の有効活用)  
 ○新型コロナウイルスの感染拡大防止の徹底

○特別な教科道徳の指導充実  
 ○松明づくりと松明あかしへの参加  
 ○生徒会・学級活動の充実(一人一役)  
 ○情報の収集・共有と組織的対応(いじめ0)  
 ○体験活動(1年)・職場体験(2年)・探究学習(3年)の実施  
 ○ジュニアボランティア育成講座への積極的参加  
 ○キャリアパスポートの有効活用

○学力テスト数値目標(全国・県平均超)  
 ○図書館教育の更なる充実(読書年間10冊以上)  
 ○家庭学習の定着と改善(自主学習ノート100%提出)  
 ○各種コンクールへの積極的参加  
 ○研究授業の実施・参加(一人1授業実践)  
 ○小学校との連携指導(学習習慣の共有)